

## 夏と冬の大イベントをメインに町と自分を勇気づける若者たちの集まり 町のゲンキはど〜んとお任せ。

川南で「若連協」といえば、その正体は知らなくても、名前だけはだれもがみんな知ってそう。ちょっと大袈裟かもしれないが、それほどデカいイベントの仕掛け人たちが、よく目立っているということだ。県内ではそのハデさが噂になるほど有名な冬の「イルミネーション」、夏は「存じザ・フェスティバル・イン・トロントロン」、同時開催の「花火大会」、ほかにも交通安全街頭キャンペーンやスポーツ交流会、夜なべ討論会など、その活動ぶりは驚くほどパワフル。



川南町若者連絡協議会が企画する「ザ・フェスティバル・イン・トロントロン」

「みんな忙しいけど好きなんでしょ、何かをいっしょにやり、町を盛り上げていく」ことが、川南自体も好きだということですね。メンバーのひとり、笑いながらそう話してくれた。実は、この若連協には前身の時代があった。昭和六十一年頃の話である。平成十四年度の「電飾大作戦」会長・新藤満司さんは、当時を振り返って「その頃、川南には大したイベントもなく、本当に何もなかった。何もなかったら何もありません、じゃあ、何かやろうよと、モノ好きが十名ほど集まったかな」と、みんなの話が煮詰まって、思い描いたのが湯布院の音楽祭や映画祭だったという。最初から夢は大きかったが、現実の道は遠かった。役場や町の人に話してもなかなか趣旨を理解してもらえず、野外の会場探しはひと苦労。けっきょく、当日はどしゃぶりで、会場を変更してまで何とかやっただものの大赤字、という結末。

しかし、失敗は成功の母。これをバネに昭和六十一年、川南町若者連絡協議会が誕生したのだ。町内の商工会青年部、農協青年部、漁協青年部、青年団、SAP、SSグループの六団体の集まり。組織に入っている若者が大集合したという感じだ。目的はお固くいうと「各団



川南町若者連絡協議会が企画する「ザ・フェスティバル・イン・トロントロン」

体が密接な連携を保ち、一人ひとりが資質向上をはかりながら、若者の交流と結束を深めることにより、町の活性化に貢献していくことにある。ま、平たくいえば、「人も町ももつと元気になろうよ、そのためには若者よ力を尽くせ」ということだろう。現在、メンバーは軽く百人を超す。こんな大所帯にもかかわらず、ますますその活動はパワーアップの途上にある。



## 神楽を愛し、地域を愛し、伝統を受け継ぐチビッコたちの神楽会 神楽から故郷自慢の心を育む。



高鍋神楽唐瀬子供神楽会

「腰を落として踊るのはちよつとキツイけど、でも楽しい」(川南小学校六年・森川大平くん)、「誰でも舞えるわけじゃないから、大人になるまで続けたい。友達とかに教えることができるのも嬉しい」(唐瀬原中学校一年・松浦秀樹くん)。

踊り終えたばかりの二人に話を聞いた。堂々とした勇壮な舞いは、大人に引けをとらない。二人の感想も自信がみなぎっていた。

唐瀬地区の金刀比羅神社では、毎年十月最後の土曜、日曜日に、五穀豊穡を祈願し神楽が奉納される。その何人もの舞い手のなかに、白い衣装をまとった子供たちがいる。高鍋神楽唐瀬子供神楽会のメンバーたちだ。三十三番のうち二番を彼らが奉納する。「子供たちには地域に何か残したという思い出を作ってほしい。いつかここを離れても、小さい頃の心に残る印象は必ず覚えていてほしい」と、唐瀬原中学校一年の松浦秀樹くんは、さ

